

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」
まちだ納税貯蓄組合連合会優秀賞

「温泉と税」

町田市立南大谷中学校 3学年 諸橋 興太郎

僕は温泉が大好きだ。温泉にはいると疲れがとれ、とてもリラックスすることができる。そんな温泉にも税がかかっていることを知った。それは、入湯税だ。

入湯税について調べてみると、いろいろなことが分かった。入湯税とは、1957年から目的税となっていて、一人一日150円を標準とする入湯客に課す税金だ。ちなみに目的税とは特定の経費に充てる目的をもって課される租税のことだ。そんな入湯税の用途は、環境衛生施設の整備や鉱泉源の保護施設の整備、消防施設の整備、観光の振興などがある。また、入湯税は入湯客に代わって施設の経営者が市町村に納める仕組みになっている。そして、その経営者は1カ月分をとりまとめて、毎月分を翌月に納税することと決められている。多くの自治体は翌月15日としているそうだ。入湯税は多くの温泉利用客が支払うことになっているが、一部非課税の人もいる。それは年齢が12歳未満の人や病気の療養を目的として入湯する場合だ。他にも、修学旅行などの学校行事での温泉利用時も非課税になる地域が多いそうだ。次に入湯税収入額が多い場所が気になったので調べてみると、神奈川県箱根町で3億円をこえるものだった。ここでさらに調べてみるとあることが分かった。コロナウイルスの影響をあまり受けていない年は、箱根町の入湯税収入額は6億円だったのだ。コロナウイルスの影響を受ける前と後で、半分もの収入が減ってしまったのだ。ここで、観光客や温泉利用客がとて減ったことが、よく分かる。入湯税は、人の動きで収入額がとも左右される税だと感じた。入湯税収入額が上がると、その税金は観光の振興などに使われ、町の活性化につながっていくので、コロナウイルスの影響を受ける前みたいに、温泉利用客が増えると思う。

税金は多くの種類があり、いろいろなことに使われるけれど、入湯税は目的税であり税金の用途がはっきりしている。そのため、自分が入湯税を払うことで、どんなことで役に立つかが分かるのが良いと思った。今は、なんとなく納めている税が多いけれど、それぞれの税の用途を調べて税金に対する理解をさらに深めていきたい。今回は入湯税に注目して税金について考えてみたけれど、それぞれの税金に役割があり、僕たちの生活や国が成り立っていると聞いた。大人になれば、納める税が増えるけれど、豊かな暮らしのために正しく納税をしたい。